別記様式第４号（その２）

# 教　育　研　究　業　績　書

令和　5年　5月　1日

氏名　菅原　直美　印

| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
|---|---|
| 看護学 | 老年看護，介護者支援，健康教育 |

教育上の能力に関する事項

| 事項 | 年月日 | 概要 |
|---|---|---|
| １　教育方法の実践例 | | |
| 1）健康教育への学習支援 | 平成25年5～6月<br>平成26年5～6月<br>平成27年5～6月 | 筑波大学医学群看護学類「公衆衛生看護学実習（平成27年度集中）」「地域看護学実習（平成25、26年度集中）」<br>ティーチングアシスタント時に、公衆衛生看護学実習および地域看護学実習における地域住民を対象とした健康教育の実施にむけて、実習終了後の時間を活用し発表や媒体作成が円滑に進むよう支援した。 |
| 2）老年看護学学修への動機づけにつながる高齢者疑似体験演習の構築 | 平成28年4月～8月、平成29年4～8月 | 目白大学看護学部看護学科「老年看護方法演習」<br>老年看護学を本格的に学修する際の導入として、高齢者が暮らしている世界を疑似体験し、その後の学修の動機づけにつながるような演習を計画し実施した。 |
| 3）実習前オリエンテーションの工夫 | 平成28年10月～12月 | 目白大学看護学部看護学科「老年・在宅看護学実習Ⅱ」<br>ICF理論を用いた看護過程の展開への理解を深めるため、実習直前オリエンテーション時に担当グループの学生に対して、質問やディスカッションの機会を設け学習効果の向上を図った。 |
| 4）レポート作成における授業の工夫 | 平成28年12月～平成29年1月 | 目白大学看護学部看護学科「基礎ゼミ」<br>1年生を対象に、レポート作成の単元を担当し、レポート作成時の問の立て方や文章の構成、読み手に伝わる書き方を演習を交えながら教授し、効果的なレポートの書き方に関する学習効果の向上を図った。 |
| 5）看護技術の習得における授業の工夫 | 平成29年4月～8月 | 目白大学看護学部看護学科「老年看護方法論」<br>実施した援助技術：麻痺のある対象への車いす移乗介助、ポジショニング、経管栄養法、排泄介助（トイレ介助、床上排泄）<br>高齢の療養者に対して実施する頻度の高い看護技術を選定し、デモンストレーションを交えて技術の習得における学習効果の向上を図った。 |
| 6）実務経験を活かした授業 | 平成30年4月～8月 | 常磐大学人間科学部「健康心理学」<br>担当単元：「生きがいや死をめぐる心理」「喪失、死別体験の心理とケア、災害時の心理とケア」各単元の基本的な概念の解説から対象理解、支援の実際について、看護師としての専門知識や実務経験を活用した講義を行った。 |

| | | |
|---|---|---|
| 7）実務経験を活かした授業 | 令和元年5月～8月 | 常磐大学人間科学部「医療心理学」<br>担当単元：「生きがいや死をめぐる心理、自殺予防活動」「喪失、死別体験の心理と必要な支援、災害時の心理と必要な支援」<br>各単元の基本的な概念の解説から対象理解、支援の実際について、看護師としての専門知識や実務経験を活用した講義を行い学修効果の向上を図った。 |
| 8）健康教育の授業における工夫 | 令和元年10月～ | 常磐大学看護学部「健康教育演習」<br>担当単元：「高齢期（介護予防）」<br>高齢期にある市民（集団）を対象とした健康教育の企画、実施、分析の方法について、研究者としての自己の経験を活用した授業を実施し、学習効果の向上を図った。 |
| 9）看護展開方法の学習における工夫 | 令和元年10月～ | 常磐大学看護学部「情報と看護展開Ⅱ」「情報と看護展開Ⅲ」「成人・高齢者看護援助Ⅱ」<br>看護展開方法の学修において、成人・高齢期にある対象の事例を作成し、対象の特徴を踏まえて看護展開を実施する思考や記録方法を学修する授業を行い、学習効果の向上を図った。 |
| 10）ヘルスアセスメントの授業における工夫 | 令和元年5月～ | 常磐大学看護学部「ヘルスアセスメントⅠ」「ヘルスアセスメントⅡ」<br>担当単元：筋・骨格系、脳・神経系<br>連続性のある当該2科目において、フィジカルイグザミネーションの知識とスキルを事例に適用する方法を段階的に修得できるような工夫を取り入れた演習を実施し、学生の理解を深めることができた。 |
| 11）シミュレーション演習の実施 | 令和2年6月～7月 | 常磐大学看護学部「成人・高齢者看護援助Ⅰ」<br>術後のアセスメント、早期離床の援助を習得するためのシミュレーション演習を実施し、学習効果の向上を図った。 |
| 12）遠隔授業における効果的なグループワークの実施 | 令和2年5月～7月 | 常磐大学看護学部「情報と看護展開Ⅲ」<br>科目責任者として、eラーニングシステムを効果的に活用し、遠隔でのディスカッションを積極的に取り入れたグループワークを展開し、学生の主体的な学修を支援した。授業評価アンケートでは学生からも高い満足度が得られた。 |
| 13）実務経験を活かした臨地実習指導の実施 | 令和2年9月～12月 | 常磐大学看護学部「成人・高齢者看護学実習Ⅲ」<br>科目責任者として、訪問看護師、介護支援専門員としての実務経験を活かして、高齢者の自立支援、多職種との協働の意義や実践方法について学生自身の気づきを引き出すような実習指導を行い、学生の主体的な学修の活性化を図ることができた。 |
| 14）対象理解を深めるため授業の工夫 | 令和2年9月～ | 常磐大学看護学部「成人・高齢者看護援助Ⅱ」<br>学生が高齢者に関心を持ち、理解を深める方法として、高齢者に対する生活史のインタビューを授業課題に取り入れた。課題実施後のレポートからは、高齢者に期待した学習効果に加え、高齢者看護実践への示唆を得る学びにつながっていたことが明らかとなった。 |
| ２　作成した教科書，教材<br>1）「公衆衛生看護学概論」における保健統計資料作成 | 平成25～27年10～12月 | 筑波大学医学群看護学類「公衆衛生看護学概論」ティーチングアシスタント時に、「公衆衛生看護学概論）で使用する保健統計に関する教材の作成を担当した。 |

| | | |
|---|---|---|
| 2）看護研究を進めるための演習シート作成 | 平成30年5月 | 国立病院機構水戸医療センター、霞ヶ浦医療センター「看護研究研修（基礎コース/実践コース）」研究疑問を発展させ、研究デザイン、研究方法を検討するための演習シートを作成し、研修資料として活用した。看護研究に初めて取り組む受講者であっても、本シートを活用することで研究計画書の作成を円滑に進め、研究を実施することができた。 |
| 3）実習要項、記録用紙作成 | 令和2年6月 | 常磐大学看護学部「成人・高齢者看護学実習Ⅲ」において、実習要項、実習記録、評価表を作成した。 |
| 4）シミュレーションシナリオ作成 | 令和2年6月 | 常磐大学看護学部「成人・高齢者看護援助Ⅰ」において、シミュレーションのシナリオ、評価表、演習要項を作成した。 |
| ３　教育上の能力に関する大学等の評価<br>1）大学設置・学校法人審議会の教員組織審査による認定 | | 大学設置・学校法人審議会における専任教員資格審査　常磐大学看護学部看護学科　講師　「可」判定<br>「ヘルスアセスメントⅠ」「ヘルスアセスメントⅡ」「成人・高齢者看護援助Ⅰ」「成人・高齢者看護援助Ⅱ」「情報と看護展開Ⅱ」「生涯発達における援助技術」「看護展開導入演習」「成人・高齢者看護学実習Ⅰ」「成人・高齢者看護学実習Ⅱ」「成人・高齢者看護学実習Ⅲ」「健康教育演習」「地域・在宅看護援助Ⅱ」「情報と看護展開Ⅲ」「地域包括ケア演習」「看護課題の探究」「看護展開統合演習」「統合実習」 |
| 2）大学院設置・学校法人審議会の教員組織審査による認定 | | 大学設置・学校法人審議会における専任教員資格審査　常磐大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）講師「可」判定<br>「成人高齢者看護学特論」「成人高齢者看護学演習」「高度実践演習（教育）」 |
| ４　実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1）さいたま市教育委員会と目白大学の共同開催大学公開講座<br>平成29年6月21日～7月19日までの毎週水曜日(5日間／全10回)開催 | 平成29年6月～7月 | 公開講座テーマ「健やかに老いる」<br>市民が自分らしく、健やかに老いるための方法を5回のシリーズで紹介する公開講座を開催し、主要メンバーとして企画・実施した。 |
| 2）国立病院機構水戸医療センター 看護研究研修（基礎コース/実践コース）講師 | 平成30年度～令和2年度 | 看護研究未経験の臨床の看護師が看護研究の基礎と実践を2年かけて学ぶための研修を企画・実施し、今年度も継続中である。本研修に参加することで倫理審査への申請、データ収集と分析、研究成果の発表、臨床への還元という一連の研究活動ができるようになっている。 |
| 3）国立病院機構霞ヶ浦医療センター 看護研究研修（基礎コース/実践コース）講師 | 平成30年度～令和2年度 | 看護研究未経験の臨床の看護師が看護研究の基礎と実践を2年かけて学ぶための研修を企画し、実施中である。本研修に参加することで倫理審査への申請、データ収集と分析、研究成果の発表、臨床への還元という一連の研究活動ができるようになっている。 |
| 4）常磐大学オープンカレッジ | 令和3年6月 | 【看護学科企画教養講座】「トキワ de SDGs」あなたの健康寿命を延ばしましょう!」（全3回）において、第1回「身体の健康の保ち方」を担当し、フレイルの概念の学習と予防方法について講義、演習を行った。実施後に参加者に行ったアンケート調査では高い満足度が得られた。 |

| | | |
|---|---|---|
| 5）第1回　語りの広場　講師 | 令和4年11月 | 水戸市内の居宅サービス事業に関わる多職種の方たちが自主的に企画している勉強会の講師として参加した。「暴力・ハラスメントの理解と対応」「ストレスとうまくつきあうには」というテーマを設け、講義と事例を活用した演習をった。特に演習では小グループに分かれ参加者同士が語る機会を設け、交流が図れるようにした。実施後のアンケートからは、高い満足度が得られた。 |
| 5　その他 | | 該当なし |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|---|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1　資格，免許<br>看護師免許<br>介護支援専門員<br>主任介護支援専門員 | <br>平成7年5月<br>平成15年3月<br>平成21年11月 | <br>第873404号<br>第140070号（秋田県）<br>主任第09098号（秋田県） |
| 2　特許等 | | 該当なし |
| 3　実務の経験を有する者についての特記事項 | | 該当なし |
| 4　その他<br>「委員等」<br>1）第28回聖路加看護学会学術大会 企画委員 | <br><br>令和4年4月 | <br><br>第28回聖路加看護学会学術大会 企画委員に就任した。（シンポジウム・ミニセミナー担当） |
| 「研究費獲得」<br>1）目白大学特別研究費 | <br>平成28～29年度 | <br>研究テーマ「在宅要介護者の家族介護者における介護ストレス - 対処モデルの検討」<br>要介護高齢者を在宅介護している家族介護者を対象として、家族介護者が介護ストレスに対処する過程を明らかにすることを目的とした調査研究を実施した。<br>役割：研究代表者 |
| 2）常磐大学課題研究助成 | 平成30～令和2年度 | 研究テーマ「地域包括ケアシステムを活用した看護基礎教育の充実」<br>地域でその人らしく健康に暮らすことを支える看護が出来る人材の育成を図る看護基礎教育の考案を目的として、北茨城市と連携を図り活動した。<br>役割：研究分担者 、研究代表者：市川定子 |
| 3）科学研究費助成事業　基盤研究C | 平成30年～令和3年度 | 研究テーマ「保健師が活用できる発達障害児の養育者の子育て支援ガイドラインの開発」<br>保健師が活用できる、発達障害児の養育者への子育て支援ガイドラインの開発を目的として、支援提供側の保健師と支援を受ける側の養育者双方を対象に実態調査を行った。<br>役割：研究分担者 、研究代表者：坂田由美子（筑波大学名誉教授） |
| 4）科学研究費助成事業　基盤研究C | 令和2年～4年度 | 研究テーマ「通常学級に在籍する発達障がいのある中学生への健康支援プログラム開発」<br>本研究は養護教諭のための発達障がい児健康支援プログラム開発の一環として研修会を実施し、プログラムの検証を行う。<br>役割：研究分担者 、研究代表者：高田ゆり子（筑波大学名誉教授） |

| 研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概　　要 |
| （著書） | | | | 該当なし |
| （学術論文）<br>1．家族介護者の介護評価と居宅サービス利用状況との関連－要介護4，5の要介護者の家族介護者を対象とした横断調査－（査読付） | 共著 | 平成28年1月 | 老年社会科学，第37巻第4号，406-416頁 | 要介護4、5の者の家族介護者の介護評価と居宅サービスの利用状況の関連を明らかにすることを目的として、横断調査の結果を分析し報告した。<br>担当：研究デザイン、調査の実施、分析、論文執筆<br>共著者：菅原直美、坂田由美子、高田ゆり子 |
| 2．成人市民を対象とした公開講座の短期的効果の検証　（査読付） | 共著 | 令和元年3月 | 日本看護科学会誌，第38巻，292-298頁 | 成人市民を対象として健康的な生活習慣の促進を目指した公開講座を実施し、その短期的効果を検証した。<br>担当：研究デザイン、調査の実施、分析、論文執筆<br>共著者：菅原直美、根本敬子、堀田涼子、他 |
| 3．公開講座の成果と今後の課題―サクセスフルエイジングを目指した公開講座の実施を通して―（査読付） | 共著 | 令和元年3月 | 目白大学健康科学研究，第12号，57-65頁 | 成人市民を対象として実施した公開講座について、活動を振り返り報告した。<br>担当：公開講座の企画・実施、論文構想、分析<br>共著者：堀田涼子、根本敬子、菅原直美、他 |
| 4.慢性心不全患者に対する指導の実態と課題（査読付） | 共著 | 令和2年3月 | 常磐看護学研究雑誌，第2巻，11-20頁 | 外来看護師を対象として、慢性心不全患者に対する患者指導に関する実態調査を行った。調査結果より、患者指導における課題および必要な支援を導いた。<br>担当：研究デザイン、調査の実施、分析、論文執筆<br>共著者：菅原直美、坂田由美子、高田ゆり子 |
| 5．日本の高齢者における「食行動」と「健康」の関連性についての検討<br>-国内文献によるシステマティックレビュー-（査読付） | 共著 | 令和2年9月 | 常磐大学人間科学部紀要人間科学,第38巻第1号,31-42頁 | 食行動の中でも、だれかと食事を共にする（共食）・一人で食事をする（孤食）という食事の摂り方に着目し、高齢者の食事の摂り方と健康、QOLとの関連性について国内の先行研究の動向を把握し、報告した。<br>担当：研究デザイン、文献検索、分析、論文校正<br>共著者：田中基晴、菅原直美 |
| 6．在宅要介護高齢者の家族介護者における介護ストレス対処方略の関連因子－介護評価との関連性に着目して－　（査読付） | 共著 | 令和4年3月 | 常磐看護学研究雑誌，第4巻，p.13-21 | 在宅要介護高齢者の家族介護者のストレス対処方略の関連因子を明らかにした。<br>担当：研究計画、調査実施、分析、論文執筆<br>共著者：菅原直美、坂田由美子、高田ゆり子 |
| 7．高齢者への生活史インタビュー体験が看護学生にもたらす学習効果（査読付） | 共著 | 令和4年3月 | 常磐看護学研究雑誌，第4巻，p.23-31 | 老年看護学の授業で実施した、高齢者への生活史インタビュー体験による学習効果について分析結果を報告した。<br>担当：研究計画、調査実施、分析、論文執筆<br>共著者：菅原直美、黒田暢子、井上顕子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8. 介護保険施設における看護実践能力の実態と関連因子　（査読付） | 共著 | 令和5年3月 | 常磐看護学研究雑誌，第5巻，p.1-11 | 介護保険施設の看護職員を対象とした質問紙調査を実施し、介護保険施設における看護実践能力の実態および関連因子を明らかにし、看護実践能力向上に必要な支援を検討した。<br>担当：研究計画、調査実施、分析、論文執筆<br>共著者：菅原直美、村井文江 |
| （学位論文）<br>1. 重度要介護者の居宅サービスの利用状況と関連要因（修士学位論文） | 単著 | 平成25年3月 | 秋田大学大学院 | 重度要介護者の居宅サービスの利用状況と利用状況に関連する要因を検討することを目的として、家族介護者を対象とした横断調査を実施し多結果を報告した。 |
| 2. 慢性心不全患者に対するセルフケア向上のための教育的介入プログラムの検討（博士学位論文） | 単著 | 平成28年8月 | 筑波大学大学院 | 慢性心不全患者のセルフケア能力の向上を目指す教育的介入プログラムを構築し、その有用性を検証した。 |
| （その他）<br>「解説/依頼原稿」<br>1. コロナ禍の臨地実習をとおしてこれからを考える | 共著 | | 看護展望 vol.46 No.9 2021年7月臨時増刊号 | コロナ禍で行った2020年度の臨地実習を振り返り報告した。<br>村井文江、坂間伊津美、菅原直美、沼口知恵子、池内彰子、黒田暢子、田村麻里子 |
| 「報告書等」<br>1. 地域包括ケアシステムを活用した看護基礎教育の充実（常磐大学課題研究助成報告書） | 共著 | 令和4年3月 | 常磐看護学研究雑誌，第4巻，p.45-49 | 「地域でその人らしく健康に暮らすことを支える看護ができる人材」育成を図るために，地域の現状や地域包括ケアシステムの看護活動の実際から学修する、効果的な看護基礎教育方法の考案を目的として活動し、その成果を報告した。<br>担当：計画、現地調査、教材作成<br>共著者：市川定子、中川泉、村井文江、柳橋礼子、板垣昭代、菅原直美、田村麻里子、福田大祐、栗田順子、海野潔美、梅井尚美、前田和子 |
| 「学会発表等」<br>1. 国際学会<br>1) The Effectiveness of Self-Management on Health Behavior in Heart Failure Patients： Literature Review.<br>心不全患者におけるセルフマネジメントの健康行動に対する効果　（査読付） | 共著 | 平成26年8月 | 第13回国際行動医学会（オランダ，フローニンゲン） | 慢性心不全患者を対象としたセルフケアへの介入研究の効果と介入内容を明らかにすることを目的としてRCT28研究を対象とした文献検討を実施した。<br>担当：文献検討の実施、抄録作成（和文・欧文）、ポスター作成、ポスター発表<br>共著者：Sugawara N., Sakata Y., Takata Y. |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2) Difficulties of Teachers When Dealing with School Children with Developmental Disabilities in A Regular Class.<br>通常学級に在籍する発達障がいを有する児童生徒との関わりにおける困難性　（査読付） | 共著 | 平成26年8月 | 第13回国際行動医学会，（オランダ，フローニンゲン） | 通常学級に在籍する発達障がいを有する児童生徒への関わりにおいて教諭が困難に感じていることを明らかにするため、横断調査を実施した。<br>担当：調査票の作成、発送、回収、抄録英文作成、ポスター作成、ポスター発表。<br>共著者：Sakata Y., Takata Y., Kanemaru R., Sugawara N. |
| 3) Relationship between Difficulties Involving School Children with Developmental Disabilities in Regular Classes and Occupational Stress.<br>通常学級に在籍する発達障がいを有する児童生徒と係る教諭の困難性とストレス性困難 | 共著 | 平成26年8月 | 第13回国際行動医学会，（オランダ，フローニンゲン） | 通常学級に在籍する発達障がいを有する児童生徒への関わりにおいて、教諭が感じている困難感と職業性ストレスとの関連を明らかにすることを目的として、公立小・中学校に勤務する教諭を対象とした横断調査を実施した。分析結果より、困難感が高い教諭は、職業性ストレスが高いことが明らかとなった。<br>担当：調査票の作成、発送、回収、抄録英文作成、ポスター作成、ポスター発表。<br>共著者：Takata Y., Sakata Y., Kanemaru R., Sugawara N. |
| 4) The Program Development of Educational Intervention to Improve Self-Care in Patients with Heart Failure<br>慢性心不全患者のセルフケア能力の向上を目指す教育的介入プログラム（査読付） | 共著 | 平成29年10月 | TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017（タイ、バンコク） | 慢性心不全患者のセルフケア能力の向上を目指す教育的介入プログラムを構築したプロセスについて発表した。<br>担当：研究活動全て、ポスター作成、ポスター発表。<br>共著者：Sugawara N., Sakata Y., Takata Y. |
| 5) Development of Empirical Model of Stress-coping for In-home Family Caregivers of Japanese Elderly　日本の家族介護者における介護ストレスに対する対処方略モデル　（査読付） | 単著 | 令和元年10月 | The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019 （台湾、台北） | 要介護高齢者を在宅介護している家族介護者を対象としたアンケート調査を行い、介護ストレスに対する対処方略と介護評価の関連を検討し、実証モデルの構築を試みた。 |
| 6) Screening of children with developmental disorders in Japan (Study1)　（査読付） | 共著 | 令和3年6月 | International Society of Behavioral Medicine 2021（オンライン開催）<br>International Journal Behavioral of Medicine,28 (Suppl1),S106, 2021 | 市町村の保健師を対象とし発達障害児のスクリーニング、早期支援に関する実態調査を実施した。調査の結果より早期からの継続的な支援の必要性が明らかとなった。<br>担当：調査実施<br>共著者：Yumiko Sakata, Yuriko Takata, Tomoko Oomiya , Naoko Deguchi , Naomi Sugawara |
| 7) The actual situation of children with developmental disorders in Japan (Study2)　（査読付） | 共著 | 令和3年6月 | International Society of Behavioral Medicine 2021（オンライン開催）<br>International Journal Behavioral of Medicine,28 (Suppl1),S107, 2021 | 発達障害児を支援する市町村の保健師が直面している課題と職業性ストレスに関する実態調査を実施した。調査の結果、保健師の職業性ストレスは高く、他者との協力の難しさが明らかとなった。<br>担当：調査実施<br>共著者：Yumiko Sakata, Yuriko Takata, Tomoko Oomiya , Naoko Deguchi , Naomi Sugawara |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2．国内学会<br>1）重度要介護者の居宅サービスの利用状況と関連要因（査読付） | 共著 | 平成25年8月 | 第39回日本看護研究学会学術集会（秋田県）<br>日本看護研究学会雑誌，36(3)，p.173 | 重度要介護者の居宅サービスの利用状況と利用状況に関連する要因を検討することを目的として、家族介護者を対象とした横断調査を実施した。分析の結果、利用率は50％未満が最も多く、在宅介護に対する意向が関連していた。<br>担当：調査実施、分析、抄録作成、口頭発表。<br>共著者：菅原直美、佐々木真紀子 |
| 2）公開講座が参加者の健康行動に与える短期的効果（査読付） | 共著 | 平成30年6月 | 日本老年看護学会第23回学術集会（福岡県） | 成人市民を対象として健康的な生活習慣の促進を目指した公開講座を実施し、その短期的効果を検証した。<br>担当：研究デザイン、調査の実施、分析、ポスター作成、発表<br>共著者：菅原直美、根本敬子、堀田涼子、他 |
| 3）高齢者における食行動と健康、生活の質の関係についての国内文献を用いた検討（査読付） | 共著 | 令和元年10月 | 第78回日本公衆衛生学会総会（高知県）<br>抄録集p.406 | 日本の高齢者における食行動と健康、生活の質との関連の特徴について、系統的な文献検討を行い検討した。<br>担当：研究デザイン、文献抽出、データ分析<br>共著者：田中基晴、菅原直美 |
| 4）高齢者における食行動と健康、生活の質の関係についての文献を用いた検討（第2報）（査読付） | 共著 | 令和2年10月 | 第79回日本公衆衛生学会総会（オンライン開催）<br>抄録集p.384 | 日本の高齢者における食行動と健康、生活の質との関連の特徴について、対象文献の範囲を国外論文に広げ、系統的な文献検討を行い検討した。<br>担当：研究デザイン、文献抽出、データ分析<br>共著者：田中基晴、菅原直美 |
| 5）介護保険施設における看護実践能力の特徴と関連因子（査読付） | 単著 | 令和3年6月 | 日本老年看護学会第26 回学術集会（オンライン開催） | 介護保険施設の看護師の看護実践能力の関連因子を明らかにすることを目的として調査を実施した。調査結果より、看護実践能力の関連因子にはケア提供体制に関する項目が多く含まれていることが明らかとなった。これより、介護保険施設で看護実践能力を効果的に発揮するためには、多職種が連携できる体制を整備する必要があることが示唆された。 |